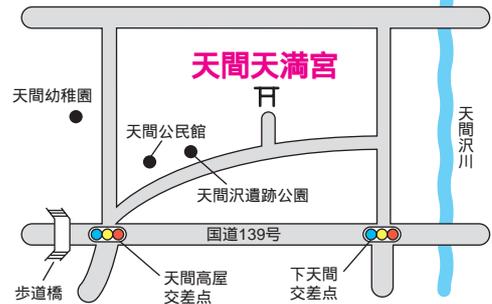


てん ま だい こ
天間太鼓



第18回

4



天間梅まつり 2月16日(日)

天間太鼓保存会は、昭和六十一年に天間地区に伝わる天間太鼓の継承と青少年の健全育成、地域のふれあいなどを目的に発足しました。

会員は、子どもの部が幼稚園児から高校生まで約三十人、成人の部はほとんどが三、四十代で約十五人、そして役員十二人で構成されています。練習日は週三回設けていますが、曜日によつて子ども、成人などと分かれています。

演奏する曲は、天間地区に昔から伝わる吉野長者の娘の伝説をもとにした「金龍祭り太鼓」など地域の歴史や伝説から曲をつくつていて、現在は十曲あります。

年を追うごとに活動の幅が広がり、今では天間地区だけでなく、ほかの地域からも出演依頼を受け、年間四、五十回出演しています。平成十一年からは鷹岡中学校で週一時間、選択授業を受け持っています。

また、発足当時から続けている社会福祉施設への慰問活動が認められ、平成十三年に日本善行会から青少年善行賞を受賞。昨年十一月には富士市社会福祉大会で市長から社会福祉功労感謝状が贈られました。

ことは、保存会の創設から十九年目を迎えます。私は保存会の発足からかわつてきました。長い活動の中で、多くの人たちの協力と情熱が、会を支える礎いしづえになっていると感じています。

今までを振り返ると、時の流れと歴史の重みを感じます。発足当時に太鼓をたたいていた子どもが、指導者の一員となり活動をしていたり、結婚後も大きなイベントになると応援に来たりします。

子どもたちからは「太鼓をやつてよかった」という声を聞くことが多く、とてもうれしく思っています。太鼓をたたくことだけでなく、人とのつながりにも魅力がありますね。これからは私たちの気持ちの継承され、健やかな子どもが育つていくといいですね。



天間太鼓保存会会長
 吉野 雄勝ゆうしょう さん(天間)

平成十五年二月五日号

こちら編集室

子どもの登校風景を見て、ふと自分の小学校時代を思い出す。この時期、庭のパケツに張った厚さ5センチメートルくらいの氷を蹴りながら学校へ行った。その氷をだれが一番大きく残せるか、友達みんなで競い合った。氷が車

に踏まれたり、側溝に落ちたりして、徐々に小さくなっていく。登校も遊びの一つだった。今はそんなに氷も張らないし、集団登校でそんな遊びもできないし...。いずれにせよ早く春が来ないかな。

人口 242,564人 (前月比+102)
 男 120,745人 (+38)
 女 121,819人 (+64)
 世帯 83,915世帯 (+31)1月1日現在
 編集・発行 富士市総務部広報広聴課
 〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100
 ☎51-0123(代) ☎51-1456

